

営業収益・・・788億円(前期比3.1%増)、カード・ショッピングクレジット・ペイメントの各事業は堅調に推移、ショッピングクレジット事業は取扱高が大幅に伸長  
 営業費用・・・742億円(同0.7%増)、システム関連費用やビジネス拡大に伴う原価性費用が増加、貸倒引当金繰入額は横ばい、利息返還損失引当金繰入額は減少  
 営業利益・・・46億円(同65.8%増)、経常利益・・・43億円(同54.7%増)、親会社株主に帰属する当期純利益・・・28億円(同15.6%増)  
 2020年度業績予想・・・新型コロナウイルスの感染拡大が業績に与える影響の不確実性が高く、現段階においては一定の仮定を置かない限り、合理的な算定は困難であることから未定としています。  
 今後、業績予想が可能となった時点で速やかに公表します。

1. 要約損益計算書

(単位: 億円)		FY2018			FY2019		FY2019業績予想*		FY2020 業績予想
				前期比		前期比		進捗率	
営業収益	1	765	788	3.1%	800	98.6%		未定	
営業費用	2	737	742	0.7%					
販売費及び一般管理費	3	709	713	0.5%					
人件費・物件費等	4	521	543	4.3%					
クレジットコスト	5	188	169	-9.9%					
貸倒引当金繰入額	6	153	152	-0.4%					
利息返還損失引当金繰入額	7	35	17	-51.4%					
金融費用	8	28	29	4.7%					
営業利益	9	27	46	65.8%	87	53.1%			
経常利益	10	28	43	54.7%	87	50.4%			
親会社株主に帰属する当期純利益	11	24	28	15.6%	70	41.0%			

\*2019年5月15日公表

(中期経営戦略の基本方針) 価値共創による成長追求と経営資源の最適活用による提供価値の最大化

【価値共創型ビジネス～アプラスの機能を活用した新規ビジネス】

- ・ネオバンク・プラットフォーム「BANKIT®」のパートナー企業向けに、スマホアプリ等を通じたシステム提供を開始
- ・USEN-NEXT HOLDINGSと新生銀行グループによる共同金融事業立ち上げ
- ・セブン銀行と新生銀行グループによる外国人居住者に向けた与信関連サービスを提供するための新会社設立

【ショッピングクレジット】

- ・昭和リースとの協業によるベンダーリース、個人向けオートリースの営業活動を強化

【カード】

- ・Tポイント付与率の高い「TカードプラスPREMIUM」の発行開始
- ・1回払いのカードショッピング利用分を後から回数指定分割に変更できる「あとから分割」の取扱開始

【ローン(ハウジング含む)】

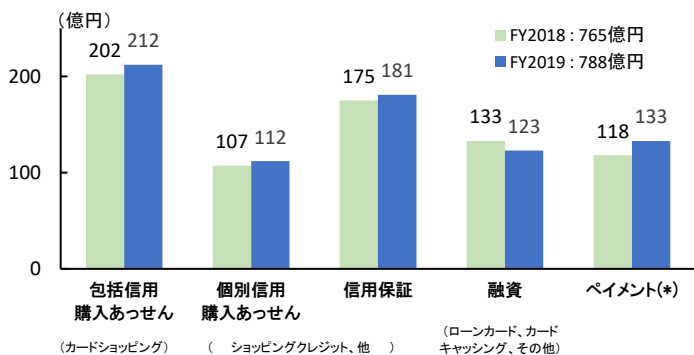
- ・リバースモーゲージ型住宅ローンの推進や、返済期間が最長35年の「リフォームローン ゆとりR35」の取扱開始

【ペイメント(\*)】

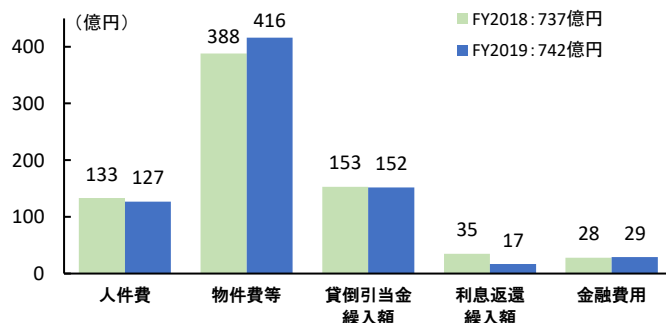
- ・APAMANグループとの関係を強化し、家賃保証業務を拡大

2. 部門別営業収益

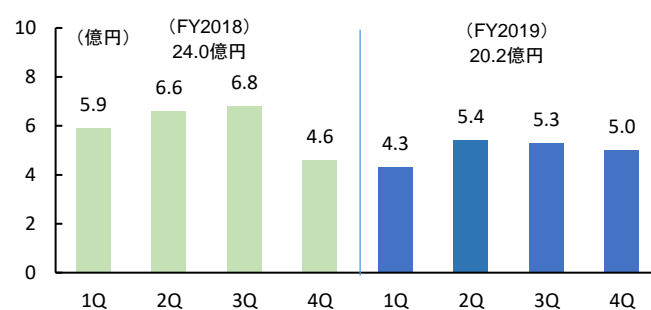
※グラフには金融・その他収益を含まない



3. 営業費用内訳

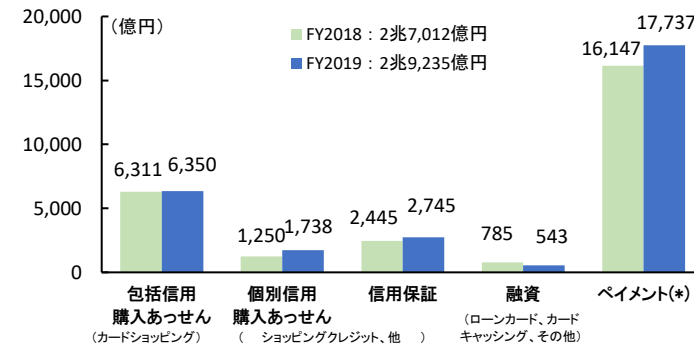


4. 利息返還実績四半期推移



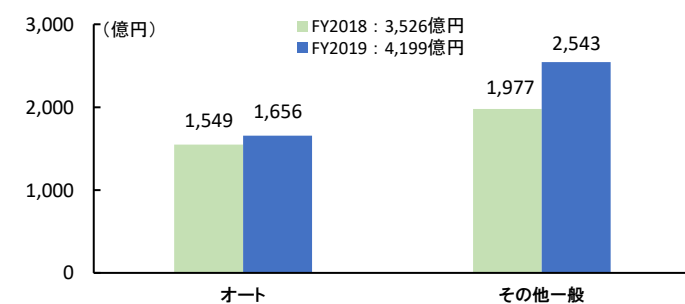
5. 部門別取扱高

※グラフにはリース・その他取扱高を含まない

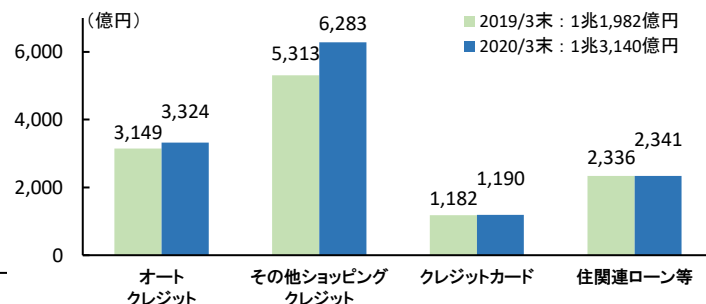


6. ショッピングクレジット取扱高内訳

※「個別信用購入あつせん」と「信用保証」の一部



7. 営業性資産残高(信用保証業務含む)



(\*) ペイメント・・・集金代行(コンビニ、口振)、家賃保証、プリペイドカード、コード決済 など